

月次県内経済

概況 生産面は堅調ながら、総じて減速感広がる

〈7月〉生産面では、原材料・エネルギー高の影響が懸念されるなか、大手・中堅造船は高水準の受注残を維持し高操業を継続、重電機械も電動機が順調な受注を背景に高操業、原動機でも海外向け大口案件を中心に高めの操業。また、電子部品も半導体需要拡大を背景に概ね高操業。一方、需要面では、公共工事請負金額、新設住宅着工戸数とも前年を下回り低調続く。個人消費では、大型小売店販売額、乗用車販売台数（含む軽）とも約半年振りのプラス。観光では主要施設の入場者数・宿泊客数とも前年割れ。雇用面では有効求人倍率が0.57倍に低下、この間、企業倒産件数は増勢にある。

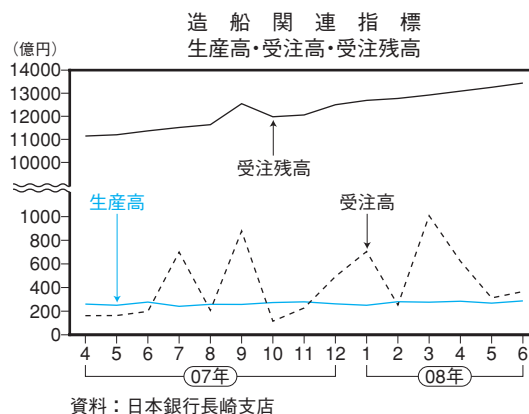
造船

大手・中堅の高操業続く

大手・中堅造船では、世界的な海運需要の高まりを背景に、コンテナ船、自動車運搬船、LPG船、ばら積み船などの新造船需要が堅調に推移。LNG船も含めて高水準の受注残高を維持しつつ高操業を継続しており、設備増強も進んでいる。

地場中小造船でも、内航貨物船の新造船受注が堅調で操業度が高まってきているほか、漁船や官庁船でも受注を確保している。

大手・中堅、中小とも、鋼材等の原材料価格の高騰が収益を圧迫している。

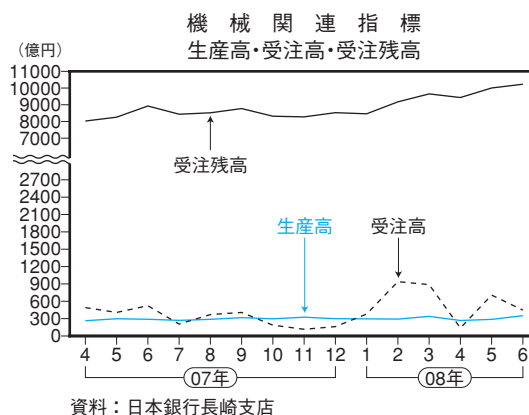


機械

重電機械は総じて高め、電子部品も概ね高操業

重電機械では、原動機（タービン、ボイラー）は海外向け発電プラント関連の受注を背景に操業を高めている。電動機（大型、中小型モーター）は中国などの海外需要や国内の設備投資の活況により受注が堅調で、高目の操業を続けている。また、列車空調装置も海外向けを中心に高操業が続いている。

電子部品では、一部で受注減もみられるが、携帯電話・PCやデジタル家電向けなどを中心とした半導体需要の好調によりシリコンウェーハやICが概ね高操業を維持している。



小売商況

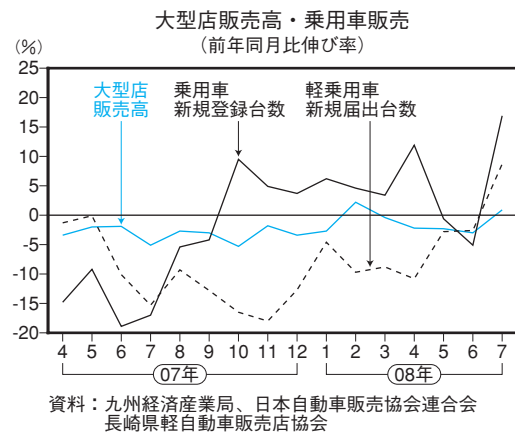
大型店販売額・乗用車販売台数、約半年振りにプラス

7月の小売商況をみると、雇用者所得低迷、燃料・飲食料品価格等の上昇など厳しい消費環境のなか、早期梅雨明け・猛暑から季節商品が動き、県内大型小売店販売額は僅かながら前年を上回り、乗用車販売も登録車、軽乗用車とも前年比プラス。この間、サービス消費面の旅行取扱高は底堅く推移。

大型小売店販売額（百貨店5・スーパー29店、九州経済産業局調べ）は119億円、前年同月比0.9%増（同一店舗比較）と5カ月振りに前年を上回った。このうち、百貨店は41億円、1.4%減。主力の衣料品が振るわなかったものの、化粧品等雑貨がプラスとなったほか、季節商材が好調であった身回品や、中元ギフトの前年並み確保、価格上昇などから食品も小幅減にとどまった。一方、スーパーは、77億円、2.2%増と4カ月振りのプラス。消費者の「内食」シフトの強まりに加え飲料・冷菓をはじめ季節商材が動いたことから、主力の食料品が比較的好調であった。

また、乗用車販売をみると、**新規登録台数**は1,930台、前年同月比16.9%増と3カ月振りに前年を上回った。このうち普通車は662台、14.9%増、小型車も1,268台、18.0%増。また、軽乗用車は1,907台、8.7%増、軽を含めた総販売台数では3,837台、12.7%増と6カ月振りのプラス。

サービス消費面では、県内主要旅行業者の旅行取扱高が前年同月比6.3%増と4カ月連続して前年を上回った。このうち、海外旅行は5.2%減となったものの、国内旅行が9.6%増と5カ月連続のプラス。

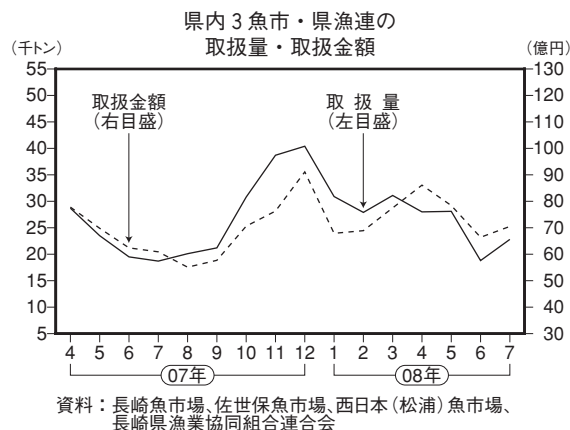


水 産

取扱量、金額ともに前年比2桁増

7月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況をみると、**取扱量**は2.3万トン、前年同月比22.1%増、**取扱金額**も71億円、同15.8%増となった。

また、魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量で約3.4倍、単価も10.2%上昇し、金額は約3.7倍であった。一方、サバは数量が52.5%減少しており、単価も9.2%下落して、金額は56.8%減となった。



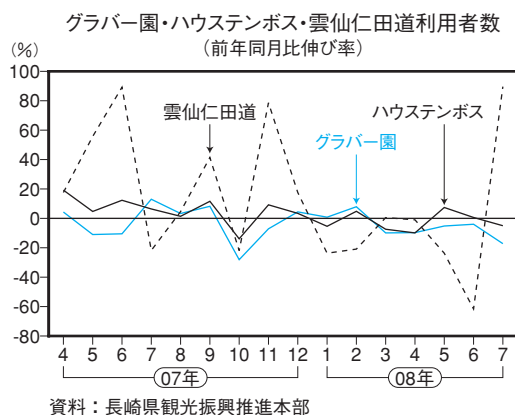
観 光

主要観光施設の入場者数、宿泊客数ともに減少

7月の県内観光をみると、主要観光施設等の入場者数、主要宿泊施設の宿泊客数ともに前年の実績を下回った。

主要観光施設等（13施設）の入場者は前年同月比2.1%減の437千人となった。県南地区をみると、長崎市内では長崎ペンギン水族館（14.6%増）が4カ月振りに増加し、長崎原爆資料館も前年並みだったものの、グラバー園（17.2%減）は5カ月連続の減少、長崎歴史文化博物館（27.5%減）も減少した。また島原半島では島原城（22.7%増）と雲仙岳災害記念館（5.4%増）が増加し、雲仙仁田道（89.6%増）も厳しい暑さもあって大幅増となり、総じて好調。一方、県北地区をみると、西海パールシーリゾート（8.0%増）と平戸城（0.9%増）が増加したものの、ハウステンボス（5.0%減）は3カ月振りに減少した。離島地区では堂崎天主堂（63.4%増）と万松院（28.5%増）が増加したが、原の辻展示館（19.9%減）は2カ月連続して減少した。

県内主要宿泊施設（52社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数は前年同月比3.7%減と、2カ月振りに減少した。その内訳をみると、県南地区（0.2%減）・県北地区（7.8%減）ともに減少。また、雲仙・小浜の各観光協会の調べでは、雲仙地区の宿泊客数は30千人で前年比8.3%の増、一方小浜地区は8千人で14.8%減であった。



公共工事

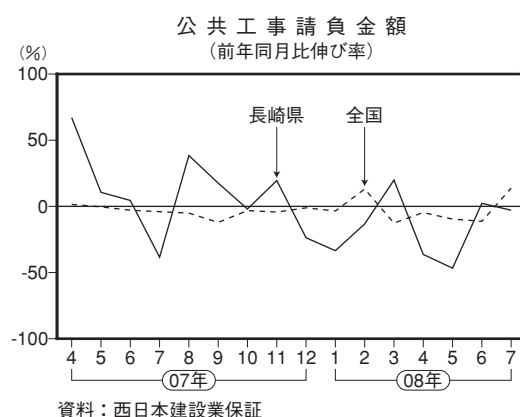
請負金額は微減

7月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は400件、前年同月比14.9%増と8カ月振りにプラスとなったが、**請負金額**は124億円、同2.9%減となった。

主要発注者別の**請負金額**では、「市町」（68億円、11.9%増）が2桁増、「県」（46億円、4.3%増）や「国」（8億円、2.8%増）も増加したものの、「独立行政法人等」（9割減）と「その他公共的団体」（7割減）が大幅減となった。

また、地区別の**請負金額**をみると、県北地区（28億円、72.1%増）、下五島地区（6億円、37.7%増）など4地区で前年を上回り、長崎地区（33億円、27.0%減）、諫早地区（16億円、23.4%減）など6地区では減少した。

同月の主な大型工事は、長崎県発注の浦上川線高架橋建設工事（4億円）、長崎市発注の西部下水処理場汚泥濃縮他電気設備工事（3億円）。



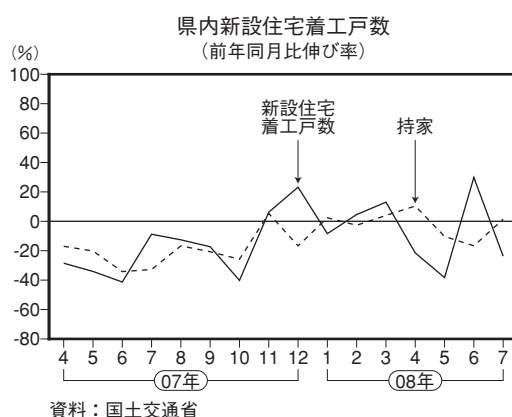
住宅建設

2カ月振り前年割れ

7月の**新設住宅着工戸数**は457戸、前年同月比23.7%減と2カ月振りに前年を下回った。

利用区分別の内訳をみると、持家（210戸、1.4%増）は微増したものの、貸家（196戸、15.5%減）は2桁減、分譲も49戸（うちマンションは42戸）、69.0%の大幅減となった。

市郡別（県建築課調べ）では、大村市（97戸、38.6%増）は増加したものの、佐世保市（99戸、54.8%減）、諫早市（32戸、28.9%減）、長崎市（143戸、9.5%減）などでは減少した。



雇 用

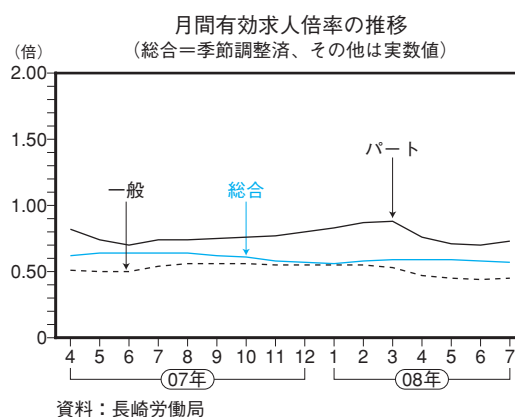
有効求人倍率は2カ月連続の低下

7月の**有効求人倍率**（季節調整済）は、前月を0.01ポイント下回る0.57倍と2カ月連続の低下となった。また、全国の有効求人倍率は前月比0.02ポイント低下の0.89倍であった。

新規求人数は7.0千人、前年同月比6.6%減と、6カ月連続して減少した。形態別では、一般求人が12.3%減、パート求人は3.5%増加した。業種別にみると、飲食店・宿泊業（11.6%増）、医療・福祉（4.2%増）などで増加したものの、建設業（38.2%減）、サービス業（13.3%減）、運輸業（12.7%減）、卸・小売業（11.7%減）などでは減少した。

一方、**新規求職者数**は7.3千人、前年同月比0.7%増となり、3カ月振りに増加した。形態別では、一般求職者は1.0%減少したが、パート求職者は5.0%増加した。

また、**有効求人数**は16.5千人、前年同月比12.7%減と9カ月連続して減少した。このうち、一般求人は19.4%減と8カ月連続して減少、パート求人は0.1%減と2カ月振りに減少した。一方、**有効求職者数**は31.1千人、前年同月比2.0%減と、3カ月連続して減少した。



企業倒産

件数・負債総額ともに3カ月振りに前年比減

8月の県内の**企業倒産件数**（東京商工リサーチ調べ）は15件、前年同月比4件減、負債総額も54億円、同21.3%減と、いずれも3カ月振りに前年を下回った。このうち負債金額が1億円以上の倒産は7件。

倒産件数を業種別にみると、土木・建設業関連8件、小売業が3件、コンクリート製品製造販売業1件、卸売業1件、サービス業1件、運送業1件。また、倒産原因別では、「販売不振」が14件、「他社倒産の余波」が1件となっている。

